



イケてる  
部隊!!

# 航空自衛隊 静浜基地

## JASDF SHIZUHAMA AIR BASE



「隊員の元気の良さ」と「礼儀正しさ」、基地内の綺麗さ、そして食事の美味しさは「ピカイチ!」と言われる航空自衛隊静浜基地。ここ静浜基地で初級操縦課程教育を行っているのは第11飛行教育団だ。静岡県焼津市にあり、同じ静岡県にある浜松基地の航空教育集団司令部の隷下部隊となっている。初級操縦課程教育を行っている基地は他に山口県防府市の防府北基地がある。

パイロットを目指すには、まずここで6ヶ月間の教育を受け、その後福岡県芦屋基地の第13飛行教育団か鳥取県美保基地にある第3輸送航空隊で基本操縦を学ぶことになる。

日々訓練を受け巣立って行く若きパイロットのため、航空機を運用している基地の中で一番面積の狭い静浜基地の隊員は「静浜ファミリー」として一丸となりパイロットの根幹を支えている。現在飛行教育に使用している T-7初等練習機は、平成12年に機種選定され平成17年から使用している。



第11飛行教育団司令 兼 静浜基地司令 一等空佐 松尾 洋介

静岡県焼津市に位置する静浜基地では、航空自衛隊のパイロットを目指す操縦学生が、航空遺産である霊峰富士山に見守られながら、日々、航空機の操縦に奮闘しています。ここでは、T-7というレシプロ機を使用した初級操縦課程教育を実施しており、航空自衛隊のパイロットの約半数が当基地の卒業生です。静浜基地は、滑走路を使用して航空機を運用している基地としては、その面積が空自で最も狭く、非常にコンパクトな基地です。また、旧海軍藤枝基地時代、昭和19年から終戦にかけて、最後まで特攻を行わず、夜間奇襲攻撃を遂行し、成に努めている静浜基地に、皆様一度見学に来てください。お待ちしています。

「静浜ファミリー」である基地所在全隊員が丸となり、元気にパイロットの育成に努めている静浜基地に、皆様一度見学に来てください。お待ちしています。

### 静浜基地所在部隊

#### 第11飛行教育司令部

基地の中核を担っている

#### 飛行教育群

学生に対する T-7 航空機の操縦に関する教育訓練を行う。

群本部  
第1飛行教育隊・  
第2飛行教育隊



#### 整備補給群

航空機等の整備や物品の補給業務を行う。

群本部  
整備隊  
補給隊



#### 基地業務群

施設の維持や通信・会計など、基地を運営するための業務を行う。

群本部・飛行場勤務隊・施設隊・通信隊・  
管理隊・業務隊・会計隊・衛生隊



#### 静浜管制隊

静浜飛行場を離発着する航空機だけでなく、静浜飛行場周辺を飛行する航空機に対する航空交通管制業務を行う。新管制塔は、平成25年8月より運用。土日に関わらず、朝7時から夜7時まで。



#### 静浜気象隊

飛行訓練等に対する気象情報の提供、気象予報・観測・情報通信業務等を行う。365日24時間を4交代で勤務している。



#### 静浜地方警務隊

担当区域の犯罪捜査等司法警察業務、部隊内の規律違反の防止に協力する保安業務や要人警護、防犯活動などを行う。



#### 静浜基地のあゆみ

昭和19年12月	海軍航空隊藤枝基地開設
昭和23年3月	航空自衛隊発足
昭和29年7月	航空自衛隊静浜基地開設
昭和33年8月	航空自衛隊静浜基地開設
昭和34年6月	第2操縦学校第2分校編成
昭和39年3月	T-6型機による飛行訓練開始
昭和39年5月	第5術科学校第2分校開設
昭和39年6月	第15飛行教育団改組
昭和39年7月	第15飛行教育団廃止
昭和39年8月	第11飛行教育団が小月より移動
昭和38年	T-34型機による飛行訓練開始
昭和53年	民間操縦士教育も行う
昭和50年4月	第5術科学校第2分校廃止
昭和54年6月	T-3型機による飛行教育開始
平成17年4月	T-7型機への機種更新開始
平成26年7月	T-7型機による飛行教育開始
平成26年	旧海軍藤枝基地開設より70年

#### 南海トラフに対する取り組み

国の地震調査委員会によると30年以内に発生する確率が60~70%とされている南海トラフ巨大地震(2013年1月1日現在)、南海トラフの側に位置する静浜基地の役割は大きい。地震が発生した場合には、南側門を解放し、周辺住民を一時的に収容する事も視野に入れ(27年度には訓練を予定している)、約14万人の焼津市民始め国民の生命を守るため、様々な訓練を行っている。平成26年度には、指揮所訓練・態勢移行訓練・人命救助システム取扱訓練・被害復旧隊実動訓練・非常用給水装置操作訓練・野外炊飯訓練・野外救護訓練・災害派遣編組訓練・航空機火災や建物火災対処訓練・燃料流



人命救助システム車両積載(油圧式ジャッキ装置での積載)

出対処訓練・滑走路被害復旧訓練・発動発電機連続運転訓練・停電対処訓練の他、各自自治体との総合防災訓練を行った。

静浜基地の役割としては、①各航空機の運用拠点としての支援 ②T-7による情報収集及び上空からの監視、他基地や行政への連絡、人員輸送など ③基地周辺の捜索・救助や物資の輸送・被害復旧など ④進出拠点としての部隊受け入れ等がある。常に初動対処要領を見直し、万が一のために備えている。



人命救助システム車両積載(フォークリフト使用時) 災害派遣資材の積載準備

#### 芙蓉部隊

太平洋戦争末期に最後まで特攻を行わず、夜間奇襲攻撃を遂行した、日本海軍第13航空隊所属 戦闘804飛行隊・戦闘812飛行隊・戦闘901飛行隊の3コ部隊の通称名。昭和19年に開設された藤枝基地に所在したのが芙蓉部隊である。藤枝飛行場から仰ぐ霊峰・富士は芙蓉峰とも言われていたためその名が付けられた。夜間



攻撃のため昼夜逆転生活を取り入れ、薄暮・夜間の厳しい訓練を行った。そして、国を守ること、命の尊さの意味を問い直した芙蓉部隊。その精神と名前は今の静浜基地にも引き継がれている。現在の第11飛行教育団第2飛行教育隊のコールサインは「FUYO」である。(静浜基地HPより)

航空祭より6日前に訪れた際、基地の正門では電柱から電線が引いている隊員がいた。基地の中は美しく、また整然としていた。航空祭に向けて整理整頓をしているのかと思いきや「いつも」とのこと。隊員と行き交う操縦学生は皆元気に挨拶をし、昼食が終わった後の時間等は階級に関係なく談笑している姿が印象的だった。松尾基地

### 静浜基地航空祭

5月24日、静浜基地航空祭が開催され、約3万人が訪れた。前日の夜まで、航空祭当日は「雨予報」が出ていて、誰一人として傘を必要としないとは思いませんでした。しかし、早朝にはバラツいていた雨も開門の7時30分頃には止み、青空が見える程の好天となった。松尾基地司令初め静浜ファミリー全員が、晴れを祈り航空祭を楽しんでもらおう、航空自衛隊の活動を知ってもらおうとの思いが届いたのだろう。

すっかり雨の止んだ午前9時、T-7×4機によるオープニングフライトから航空祭は始まった。次いで、浜松基地のT-4、百里基地のRF-4、岐阜基地のF-2、小牧基地のC-130と続いた。直後のT-7×2機による機動飛行時には晴天となり、T-7の機体の赤と白が青空に映え美しかった。ずっと上を見上げればなしの来場者たちも一息ついた昼前、エプロンでは、T-7Jrの演技が始まった。

午後からは静岡県警ヘリの飛行、そして T-7×11機による大編隊となった。富士山編隊、S字編隊、ハート編隊に来場者は「すごい〜」と歓喜の声。最後は百里基地の F-15 による機動飛行。普通の航空祭は、これで終わりなのだが、静浜基地は違う。何と「各基地から飛来していた航空機が帰ります。皆さん手を振って見送って下さい」とのアナウンスが流れた。地上に展示してあった航空機やヘリを見送るためエプロンでは、多くの人が帽子を手で押さえながら、手を降って見送っていた。それに手を振り応えるパイロット。帰り道を優しく誘導する静浜ファミリーの隊員たち。第2次世界大戦末期に特攻を行わず夜間奇襲攻撃を遂行した事で有名な「芙蓉部隊」が所在していた歴史ある静浜基地(当時は藤枝基地と呼ばれていた)。各所にいる静浜ファミリーの一言一動にその魂を感じた航空祭だった。



雨予報だった当日がお昼頃には青空も見えた、幸運を持った基地



パイロットを目指す若者が初級訓練を受ける T-7



静浜基地名物、T-7大編隊(富士山編隊)



今回の祭の功労者、気象隊前で頑張ってきたてる坊主

司令は、航空機の運用がどのようなものか隊員に理解させるために基地所属隊員全員に T-7 搭乗を推進している。6月10日現在約80パーセントの隊員が搭乗経験を有しているという。「静浜基地は風光明媚でのんびりしている」とよく聞か、のんびりしているというより、懐深く暖かい基地という印象を受けた。基地中が、「航空自衛隊のパイロットを育てるため」に動いている、そのために配慮をしているという事がヒシヒシと感じられる静浜基地だ。そんな静浜基地の部隊はイケてる! (記者の目)

